

ぶっせつあみだきょう
ぶっきょうつうしん 「『仏説阿弥陀経』ってすごい！」 がつごう 3月号

こんかい ぶっきょうぎょうじ うらぼんえ としき どきょう ぶっせつあみだきょう いか あみだきょう しょう はな
今回は仏教行事(盂蘭盆会)の時に読経する『仏説阿弥陀経(以下「阿弥陀経」と称する)』についてお話しをし
ます。この『阿弥陀経』といえば、がっこうでどきょうするおきょうなか いちばんなが
が切れ、いまよ かしよ みのが ふたた ふつき こんなん ゆびさ かくにん しんけん よ なんだ
が切れ、今読んでいる箇所を見逃してしまうと、再び復帰するのが困難であり、指差し確認しながら真剣に読む「難度
たか きょう こくじょ じどう せいと あいだ ゆうめい
高め」なお経として、国女の児童・生徒の間では有名です。

この『阿弥陀経』の中に「青色青光、黄色黄光、赤色赤光、白色白光」という一節が出てきます。この経
もん あお はな あお ひか きいろ はな きいろ ひか やく hito jibun
文は「青い花はあるがまま青く光ればよい、黄色い花はあるがまま黄色く光ればよい～」と訳し、人は自分のあるが
まますがた い どうと かた こせい ほっき うえ ちょうわ せかい ごくらくじょうど あみだによらい
まの姿で生きるのが尊いと語っており、それぞれが個性を發揮し、その上で調和する世界が極楽浄土(阿弥陀如来
の国)だと教えてくれているのです。

げんだい しゃかい がっこう たようせい きょうせい かんが じゅうし たが みと あ
現代の社会や学校では、「多様性」「ダイバーシティ」「共生」といった考えが重視され、お互いの『認め合い』
が目標として掲げられています。この考え自体はとても素晴らしいものだと思いますが、『認め合う』という言葉
が、ともすれば「相手を理解し、受け入れる」という行為を絶対的な美德として捉え、違いを無理に納得させようと
する圧力が生じないかと危惧することがあります。人間の容姿、性質、嗜好、生物学的・社会的性別は多岐にわた
り、ぶんか しゅうきょう かんしゅう たようせい と せかい たしゃ すべ りかい ことば い かんたん
り、文化、宗教、慣習も含め多様性に富んでいるこの世界で、他者の全てを理解することは、言葉で言うほど簡単
なことではありません。

ここでまた『阿弥陀経』の話となりますが、「青色青光、黄色黄光、赤色赤光、白色白光」は「違っている
ことを無理して理解しようとしなくても、違ったまま、分からないままで受け入れることも大切だよ」と、阿弥陀如来
が教えてくれているのだと私は思うのです。それぞれの花が、ただあるがままに、その色に応じた光を放つように、
にんげん むり たが ちが りかい わ ちが
人間もまた、無理に互いの違いを理解しようとせずとも、分からないまま、違いがあること
ぜんてい ちが そんなちよう とも い めぎ こんかい
を前提とし、その違いを尊重しながら、共に生きることを目指していいのです。今回、

『阿弥陀経』が語っている多様性のあり方は、私たちが目標とする「共生」のモデルケ
ースとして参考となりましたので、皆様にご紹介させていただきました。児童の皆さんは、
ぶっせつあみだきょう どきょう さい しょうしきしょうこう おうしきおうこう ちゅうもく
『仏説阿弥陀経』を読経する際、「青色青光、黄色黄光～」のフレーズに、是非注目をし

てみてください。合掌

しょうがくぶらいはいいいんかい
小学部礼拝委員会

「青色青光。黄色黄光。赤色赤光。白色白光」
は小学部『みひかり集』36ページ4行目に記載

